

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	16
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	4
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1. 一人ひとりの把握	2
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1. その人らしい暮らしの支援	13
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 3月 30日 開始 10時00分 ~ 終了 16時15分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム いずみ ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>高橋 玲子</u>
	氏名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>田中 太一</u> ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について
外部評価は41項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1570201200
法人名	ながおか医療生活協同組合
事業所名	グループホーム いずみ
所在地 (電話番号)	新潟県長岡市泉1-7-22 (電話) 0258-39-2323
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.4人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	1名			
年齢	平均	86歳	最低	80歳	最高	104歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	生協かんだ診療所・ながおか生協診療所・しみず歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年、多様な介護事業を展開している医療生活協同組合が開所している。「ながおか生協」地区2つのグループホームの一つである。近隣住民の殆どが生協組合員であり、隣のスーパーでは毎日食材の買い物で馴染みの関係となったり、日常的に一緒に昼食を食べてくれる方がいたり、行事や活動等積極的に関わることによって気軽に行き来できる良い関係ができています。向かいの同組合診療所とは医療連携体制が構築されており、地域の中で安心した暮らしをバックアップしている。「一人ひとりの暮らしを大切に」現状に甘んじず、日々より良いサービスに向け改善を重ねている。管理者を中心に職員が一丸となり取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は管理者が中心に土台を作り話し合っている。不足していたマニュアルを整備・見直ししたり、伝達講習を含めた勉強会の充実等、より良いサービスの為、具体的な改善を積極的に重ねている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で業務を振り返る良い機会と意識し、個々で評価したものを話し合い、管理者がまとめている。調査でもありのままを見て意見をもらいたいと意欲的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	前回の評価結果より、日程調整や声かけにて会議を2ヶ月に1回、定期的な開催を実現している。入居者・サービス状況、行事や評価の取り組み等を報告し、特に「地域に向け利用者の力を活かした活動内容」を地域の理解と支援を受ける為に話し合い、それを活かした取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を説明し、年2回の家族会等、意見を表せる機会を設けているが、直接意見を言われる方が多く運営に反映させている。希望する家族に1ヶ月の記録をわかりやすくしたものを定期的に開示している。今後アンケート等も考慮中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩や買い物等日常的なことから、地域行事への参加、ホーム行事の実施、気軽に行き来できる良い関係ができています。未就学児サークルや地域ボランティアの来訪、コミュニティセンターの絵画等作品展示の場の提供、同組合事業所と福祉相談の実施等、積極的に地域とかかわることに努めている。災害時にも連携体制ができています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初、職員全員で話し合い『お互いを尊重し、ひとりひとりの暮らしを大切にします』を基本理念とし、「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「家族と地域とのかかわりを大切に」「いつも同じなじみの環境」「適度であること」をキーワードに独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く所に掲示し、会議等で話し合い、「ゆったりと楽しく」生活できるよう実践に向けて日々取り組んでいる。今回職員アンケートで理念の理解度を確認し、共有方法について検討・試行を重ね、常に振り返り意識できるよう努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族向けおたよりを毎月、地域向けおたよりを年に4回発行し送付・回覧したり、行事や運営推進会議等で話し、理解してもらえよう取り組んでいる。どのようにしたらさらに理念が浸透できるかを家族や住民に問いかけ、おたよりの内容を検討する等している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物等日常的なことから、地域行事への参加、ホーム行事の実施で気軽に行き来できる良い関係ができています。未就学児サークルや地域ボランティアの来訪、コミュニティセンターの絵画等作品展示の場の提供、同組合事業所と福祉相談の実施等、積極的に地域とかわかることに努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で意義を理解し自己評価を行い、調査でもありのままを見て意見をもらいたいと意欲的に取り組んでいる。前回の評価結果は管理者が中心に土台を作り話し合い、具体的な改善を積極的に重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	前回の評価結果より、日程調整や声かけにて会議を2ヶ月に1回、定期的な開催を実現している。入居者・サービス状況、行事や評価の取り組み等を報告し、地域の理解と支援を受ける為話し合い、意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員と連絡をとり、成年後見制度等の相談や意見をもらっている。介護相談員を2ヶ月に1回受け入れ、利用者の思いや意見をともに検討しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組合のマニュアルを活用し、生協組合主催の学習会やホーム内の勉強会で学ぶ機会を設けている。日々のケアの中で言葉や対応に注意し、虐待が見過ごされることがないように意識して注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者のコメントを入れた毎月のおたよりは勿論、面会時や電話で日々の様子や出納帳の確認、職員の異動等について、個々にあわせた報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を説明し、年2回の家族会等、意見を表せる機会を設けているが、直接意見を言われる方が多く運営に反映させている。今後アンケート等も考慮中である。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や勉強会、日々の業務の中で随時意見や提案を聞く機会を設けている。今回職員に事業所評価と自己評価アンケートを実施し、業務内容やマニュアルの見直し等、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	組合内では新しい事業所が増え交代が余儀なくされたが、運営者はグループホームに関しては馴染みの関係を考慮し、異動を最小限に抑える努力をしている。代わる場合は利用者నికిきちんと説明し、職員間で連携し、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	組合のマニュアルとホーム独自のものを整備している。組合では身体拘束マニュアルを同意書を含め見直している。前回の評価結果を受け、介護マニュアルや消防計画書については管理者が中心となり、ホームの実情に合わせ独自のものをつくりあげ、会議や勉強会にて共有している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組合内では学習委員が組織され、半年毎の段階的な計画を示し、研修を受ける機会を設けている。前回の評価結果より、ホームでは管理者がテーマ・担当者を決め伝達講習を含めた勉強会や個別面談の実施で、向上心を持ちトレーニングしていくことに力を入れている。外部研修への参加が少ないのが課題である。		特に組合内で行き詰まっている課題には、外部の人材の意見・経験や交流が助けとなる。資格取得を含めた段階的な外部研修の機会を増やし、さらにサービスの質向上に繋げることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が積極的に声かけし地域のグループホームと情報交換や交流に努めている。組合内のグループホームと交換研修を行い、業務やケアに活かしたり、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者はいつでも意見や悩みを聞く良好な関係ができている。組合で落ち着いて休める場所を検討しているところである。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族の意向やホームに臨むことを把握し、見学・試し入所等取り入れ、理念にある「馴染みの環境」に配慮してサービス利用を進めている。組合内の他のサービスから移行される方が多く、前サービスの関係者が付き添い連携して、受け入れがスムーズに行われている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆったりとした環境の中、互いに尊重し寄り添い生活することで、料理の仕方や昔の話等学び、時にはたしなめられたり、励まされたり、感謝し合い支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を伝えたり、面会や行事参加を促し、関係が継続できるよう配慮している。家族の気持ちに共感し、共に支える協力者としての関係づくりに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わる時は傾聴の姿勢でまず希望や意向を聞き、理念の「一人ひとりの暮らしを大切に」した支援に繋がられるよう努めている。困難な場合は表情や行動から思いをくみ取り、本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、信頼関係を作りながら入居時家族に記入を依頼し、プライバシーに配慮して知人・関係者等より、これまでの暮らしの総合的把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に計画に繋げる「生活に対する意向」の記入を依頼し、本人、家族と話し合い、より快適に心地良く過ごせるための本人らしい計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、居室担当職員が中心となりモニタリングを行い、アセスメントシートに情報を加え書き換え、常に変化に対応できるよう工夫している。6ヶ月をめやすに話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や希望に応じ外出支援や、特に近隣の同組合の診療所や事業所とは連携体制がとれており、通院や健康管理支援を柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認しかかりつけ医に受診している。近隣の組合診療所を同意している方が殆どであり、「ご家族ノート」を使用し月2回の往診と看護師の健康管理を支援している。24時間の医療連携体制が構築され、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	組合で重度化や終末期における指針を策定している。入居時、本人・家族に終末期の考え方やホームの体制、意見確認の方法等説明し、かかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の評価結果より、研修・勉強会、会議等で学び、職員間で意識を統一して取り組んでいる。さりげない言葉かけや対応に配慮したり、個人情報は鍵付きの棚に保管し、目に触れない所で記入する等工夫している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを大切に、理念にある「自由にありのままに」過ごせるよう個性のある支援を心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みやできることを見極めながら、献立作り、買い物から片付けまで一連の食事づくりを一緒に行っている。食事は職員も同じテーブルで、テレビの音量を下げ、談笑しあう大切な時間としてしており、楽しみなものとなっている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を1ヶ月毎にまとめ、個々の排泄サイクルを把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。計画にもさりげない声かけ・誘導や、なるべくおむつを使用せず、パットや布パンツで対応することを掲げ、自立支援に向けた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミング・体調・状況に応じ、ゆったりと入浴できるよう配慮している。入浴剤や季節湯、ラジオをつけたり、仲の良い同士で入浴し、楽しみなものとなっている。拒否の方には同性職員が対応したり、家族の協力を得て支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念より「暮らしの喜びと自信を」持てるよう、一人ひとりの役割や生活歴を大切に、掃除・買い物・洗濯干し・計算等を支援している。行事や外出、毎日のレクリエーション・手作業は楽しみや気晴らしとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿い食材の買い物や散歩等、日常的に外出している。外出をあまり希望されない方にも自宅や馴染みの場所に個々に出かけられるよう配慮したり、外食・工場見学等普段行けないところへの外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	組合で同意書を含めマニュアルを見直し研修を実施したり、ホーム内では勉強会や会議にて正しく理解し、意識を統一して身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員で弊害を理解し、玄関にセンサーを設置する等工夫し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出される方には見守りを徹底し、付き添う等配慮している。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を活用し、速やかに話し合い対策を検討している。提携医より個々の状態に応じた事故防止策の指示があり、今年度事故は発生していない。組合内では報告書を回覧し、事故防止の取り組みを共有している。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回ほど、救急救命講習を全職員が受講している。個々の予測できる急変についてはカルテをまとめ速やかに対処できるようにしている。、提携医や看護師より指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署員の指導の下、昼夜想定で避難訓練を行っている。備蓄・防災セットを準備している。災害時の連絡網には地域の組合員も入っており、連携体制ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日好みや季節・栄養バランス等に配慮し、一緒に献立を立て買い物に出かけている。月1回組合の管理栄養士より、献立を評価・指導してもらっている。摂取量や状態を日誌に記入・チェックし、代替メニューや食形態を調整し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはプランターを置き、花を植え温かな雰囲気配慮している。室内には地域の方や利用者の作品・写真・季節の装飾・生花が飾られている。テレビ周辺には、ソファと簡易ベットを設置し、思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、タンスやベット・寝具等持ち込んだり、好みの物を購入し、馴染みの環境を大切に本人らしい居室づくりを支援している。		